

大江町学校校歌集



刊行によせて

校歌はいつの時代も、建学の精神や理想とする校風を高く掲げ、児童・生徒の連帯感や向学心を高揚させる役割を果たしてきました。また、校歌の歌詞の多くは、学区内に存在する山や川などの自然の景観と、歴史や伝統などの文化の景観から構成されています。それらは学区内に住む人々にとっても共通に認知されたものであることから、歌い継がれることで各年代に浸透し地域に定着してきました。

同時に校歌には、詞や曲の調べに乗せて学校生活の思い出が保存される記録媒体としての役割もあります。卒業した学校の校歌の一節にふれただけで、自分だけの心の奥底に眠っていた思い出、あるいは学友や同窓生との共通の思い出が一気によみがえったなどということはだれしもが経験されていることでしょう。

このたび大江町教育委員会では、いま町内の小中学校で歌われている校歌と、閉校となった学校でかつて歌われた校歌をまとめた『大江町学校校歌集』を刊行いたしました。大江町は平成二十五年三月に、自然や風土と調和して営まれてきた人々のくらしがしのばれる景観が大切に保存されている町として、県内初となる国の重要文化的景観に選定されました。学区の豊かな自然とくらしをうたった校歌は、地域の景観が凝縮されたものということができるでしょう。この刊行を機に、学区の文化的景観が詠み込まれた各校の校歌をいとおしんでいただくとともに、それぞれの皆様が校歌に夢を乗せて青春の血をたぎらせた時代に思いを馳せていただければありがたいと思います。

平成二十九年三月

大江町教育委員会



目次

一校歌

(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)
七軒南小学校	七軒西小学校	七軒東小学校	本郷西小学校	三郷小学校	本郷東小学校	左沢小学校
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
18	16	14	12	10	8	6

二校歌楽譜

(三)	(二)	(一)	(土)	(十)	(九)	(八)
三郷小学校	本郷東小学校	左沢小学校	七軒中学校	本郷中学校	左沢中学校	大江中学校
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
32	31	30	26	24	22	20

(十一)	(十)	(九)	(八)	(七)	(六)	(五)	(四)
七軒中学校	本郷中学校	左沢中学校	大江中学校	七軒南小学校	七軒西小学校	七軒東小学校	本郷西小学校
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
40	39	38	37	36	35	34	33

参 考

山形県立左沢高等学校校歌

⋮

42



校

歌



校歌

作詞 稲葉 武
作曲 松田 光郎

一 東開けて 眺めよい
古い歴史の 水郷すいきやうを
流れて止まぬ 最上川
岸辺に高く たつ母校
ああ 左沢の小学校

二 きれいな学苑そに 校風かぜかおり
みんな仲良く 花と咲く
ああ 左沢の小学生
心ほがらに 健やかに
今日も楽しく 励もうよ

三 平和の光 さすところ
希望は胸に あふれくる
ああ 左沢の小学生
昔をしのび 日に新た
今日も元気で 学ぼうよ

成 立

◆稲葉 武

制定当時の校長。のち寒河江小学校長を務めた。西川町大井沢。

◆松田 光郎

左沢小学校の卒業で高等学校教員。作曲当時は寒河江高等学校教諭。「大江町民歌」「朝日山岳歌」や寒河江高等学校応援歌「桜にかおる」など多くの作曲を手がけた。大江町左沢。

◆昭和二十八年制定



左沢小学校校舎



左沢小学校相撲大会

一 東にさえぎるものがなく、見晴らしがよい。古い歴史の舟運の町を、流れてやむことのない最上川。その川の岸辺に、母校の左沢小学校は高くそびえたっている。

二 美しい校舎に薫り高い校風が受け継がれており、どの子もすべて仲良く咲く花のように育っている。左沢小の子どもたちよ、明るく健やかな心で今日も楽しく励んでいこう。

三 戦争が終わり平和の光が差し込むこの地に立てば、明るい未来に胸は希望で満ちあふれる。左沢小の子どもたちよ、先人の歴史を思い起こし、常に進歩していくことを求め、今日も元気で学んでいこう。



■**岸辺** 左沢小学校創設の地は最上川と月布川の合流点の岸辺、現ふれあい会館の場所で、校歌制定時にも変わらなかった。学校文集名の「はやせ」も早瀬（水流の早い川）の意で、急流最上川が眼下に流れることから名づけられた。

■**高きたつ** 昭和十一年の大火の後に新築された鉄筋コンクリート三階建校舎（南西隅は四階建）を指す。同十九年の荻野地震で損傷し使用禁止となったが、二年に及ぶ補強工事が行われ同二十五年に完了した。

■**きれいな学苑** 「苑」は庭園の意味とともに、学問や芸術などの集まる所の意味も持つ。

■**昔をしのび** 左沢小学校は、学制発布の翌年にあたる明治六年四月、旧松嶺藩陣屋に「第一番左沢学校」として創立した。

■**日に新た** 儒教の経典、四書の「大学」にある言葉。昨日よりも今日、今日よりも明日と、一日ごとに新しくなること。常に進歩していること。

校歌

作詞 完戸 一郎
作曲 田中 綾子

一 朝日の峯の 雪とけて
ながれも涼し 月布の
ほとりに育つ 友われら
ああさわやかな 学び舎に
からだきたえて 規律よく
学ぼう世界の 智と徳を

二 北空たかく そびえたち
のぞめばいよよ おごそかに
ゆくてをさとす 月の山
ああたくましく はばたいて
希望の天地 めざしつつ
おこそう祖国を 故里を

三 思い出つもる 野の道を
仲よくかよう なつかしの
本郷東小学校
ああたからかに うたいつつ
たのしく遊び はたらいて
築こう自律の 校風を

成立

◆完戸 一郎

山形、置賜地区で教員を務めたのち、山形県教育委員長、山形県議会議長等を歴任。アララギ派に属してよく短歌を詠み、校歌等の作詞数は百を超える。高畠町一本柳。

◆田中 綾子

東京芸術大学音楽部の前身である東京音楽学校卒。作曲
当時は東京都内中学校の教員。

◆昭和三十五年制定



本郷東小学校校舎



児童の様子

一 朝日連峰の雪解けに源を発し、清流となって流れる月布川の、流れのほとりに育ってきたのが、わたしたち本郷東小学校の友である。清新の気に満ちたこの学び舎で身体を鍛錬し、規律正しく世界の英知と美徳を学んでいこう。

二 月山は北の空に高くそびえ立ち、仰ぎ見ればより一層おごそかに、進むべき道筋を指し示してくれる。その力を受けてたくましくはばたき、希望あふれる世界をめざしながら、祖国をふるさとを盛んにしていこう。

三 思い出が積み重なった野原の道を友と仲よく通い、心がひかれていつまでも学んでいた本郷東小学校である。高らかに校歌を歌いつつ、楽しく学び、怠けず勉学に励み、自律の校風を築いていこう。

■朝日の峯の雪とけて 朝日連峰東端の小朝日岳と鳥原

山との間から流れ下る古寺川が月布川と名を変える。

雪解け水を集めた源流が平野に至るまでの月布川の様相が冒頭の二行で端的に表されている。

■いよよ ますます。前よりもいっそう。

■さとす 教え導くという意味のほかに、神仏が啓示して気づかせるという意味もある。

■おごそう 「興す」で、衰えたものを盛んにすることの意味している。校歌が制定された昭和三十五年は戦後十五年目で四年後に東京オリンピック開催をひかえていたが、地方においては復興いまだ道半ばであった。

■はたらいて 仕事で働くことが主たる意であるが、ここでは勤勉に励む、精を出すの意。



校歌

作詞 井上助太郎
作曲 丸子 喜一

一 ほのぼのと

桜の花の 咲く丘に
古城のように そそり立ち
歴史を語る 白い壁
壁にきざむ 高い希望
胸にいだけば はつらつと
ぼくらは学ぶ 朝夕に

二 今日もまた

紅葉かざして 行く道は
最上のほとこり ひとすじに
松の影ふむ 古い道
遠く望む 朝日の雲
行こうよみんな あの雲へ
歌声たかく 元気よく

三 そよ風よ

日本の夜明け しらじらと
近くきこえる 瀬の音に
水引草が ゆれている
守れ山河 つくせ誠
まこと仲よく 立ち上がる
その名も 三郷小学校

◆井上助太郎

左沢尋常高等小学校訓導、山辺高等学校長、寒河江市教育長等を歴任。アララギ派に属して短歌を詠み、昭和四十五年及び五十三年の歌会始に詠進歌入選。寒河江市栄町。

◆丸子 喜一

山形第三小学校長、山形第三中学校長等を歴任。県内各学校の校歌をはじめとする多くの作曲を手がけた。山形市。

◆昭和三十八年制定

◆平成二十四年三月休校、同二十五年三月閉校



三郷小学校校舎



三郷小学校松風太鼓

一 ほんのりと淡く桜が咲く丘に、風格ある古城のようにそそり立ち、学校の歴史を語っている白い壁が見える。その壁に刻み込むように、一人一人が遠大な希望を胸にいだいている。だからこそ、わたしたちはいつも活気にあふれ学びに励むのである。

二 今日もまた紅葉の枝をかざして登校する道は、最上川に沿ってひとすじに続き、ようやく松の木の影を踏むと学校に着いたと実感する、長く古い道である。遠くには朝日連峰にかかる雲が見える。行こうよ、みんな、あの雲に向かって、歌声たかく元気よく。

三 そよ風が吹き、新生日本の朝がしらじらと明けてゆく。最上川の瀬音が近くに聞こえ、道端には水引草が揺れている。この美しい山河が永遠に続くように、誠を尽くして生きていこう。真心を持ち仲よく手を取り合って立ち上がり進んでゆくわたしたちの学校、その名も三郷小学校。

■ 白い壁 校歌制定当時の三郷小学校は昭和八年の建設。和風二階建ての校舎に隣接する体操場は、板張りに漆喰の白い壁が印象的であったという。

■ 胸にいだけば 歌詞全体は口語だが、この箇所のみは文語とし、確定条件の「…なので」と解釈するのが妥当。

■ 朝夕に 常に。いつも。

■ 松の影 当時、校地には数十本の松があった。校章のデザイン、学校文集「まつかぜ」、和太鼓「松風太鼓」など松にちなむものが多い。

■ 水引草 花卉の上側が赤く下側が白いことから、祝儀の水引に見立てて名がついた。慶事、幸福の暗喩。

■ 山河 ほか 校歌の随所に杜甫の漢詩「春望」に着想を得た表現が見られ、詩情が漂っている。

「国破れて山河あり」…日本の夜明け・守れ山河・立ち上がる

「城春にして草木深し」…古城・水引草



校歌

作詞 鈴木錦之助
 編詞 安孫子正雄
 作曲 福田 隆一

一 さみどりの 山はめぐりて
 うるわしき 鳥も来なきて
 垂穂たりほなす 恵みの里に
 そびえたつ 我等が校舎
 共に 讃えん

二 月布の 流れも清く
 里人を うるおす如く
 年々を この学舎の
 恵み来し かおりぞ高き
 共に あおがん

三 たぎりたつ 我等が血潮
 み教えを 胸に心に
 世の中の 力とならん
 いや高き 望みに生きて
 共に はげまん

成立

◆鈴木錦之助

明治二十八年に旧本郷村荻野に生まれた。旧姓最上。制定時は旧制谷地高等女学校の教員。戦後、新制西里中学校の初代校長を務めた。河北町谷地。のちに本郷西小学校第十八代安孫子正雄校長が編詞。

◆福田 隆一

作曲当時は山形県師範学校の教員。

◆昭和十二年制定

◆平成二十五年三月休校、閉校



本郷西小学校校舎



授業の様子

一 若葉色だった山は季節が移って、成鳥に育った鳥たちもやってきてさえずるようになり、稲の穂が豊かに実り頭を垂れている。この恵みの里にそびえたつわたしたちの学校を、共にたたえよう。

二 月布川の清流は里を潤し、里人に恵みを与えてきた。それと同じように、わたしたちの学校が毎年毎年、恩恵を与え続けてきた、その教育と文化の薫りの高さを、共に敬い大切にしていこう。

三 沸きかえるような熱い血潮のわたしたちは、先生方の教えを胸と心に刻みつけ、きっと世の中に貢献できる力となっていくだろう。崇高な希望を実現するための生き方を求め、共に励んでいこう。



■さみどり 若草や若葉の緑色。

■うるわしき 立派である。見事である。

■垂穂 実って垂れ下がっている稲の穂。

■讃えん たたえようの意。「ん・む」は意志を表す助

動詞。「あおがん」「ならん」「はげまん」も同じ用法。

■かおりぞ高き 係り結びを用いて本郷西小学校の教育や文化の気品と格調の高さを強調している。

■あおがん 「仰ぐ」は上を向く、尊敬するなどの意味がある。

■み教え 「み」は尊敬や丁寧の意を表す接頭語。

■いや高き 「いや」はますます、最も、たいそうなどの意味を持つ。

■望みに 「に」は目的を表す助詞。「…のために」

校歌

作詞 安孫子恒雄
作曲 齋藤 鉉吉

一 月布川の 水清く

知性の淵を ひたしゆく

流れ絶えせぬ 山峡やまがけに

架ける平和の 虹の橋

心誠まことに 身は強く

ああ 仲良しの 花と咲き

うたう うたさえ 日に新た

二 御館の山の 緑こく

輝く風の 薫る丘

貫見の里に 映えてたつ

古き歴史の 東校

今日も楽しく 集い来て

ああ うるわしの 山川に

誓う 心も 日に新た



七軒東小学校校舎



モンテディオサッカー教室

成 立

◆安孫子恒雄

川土居小学校長、西根小学校長、谷地中学校長、寒河江中学校長、寒河江市教育長等を歴任。寒河江市丸内。

◆齋藤 鉉吉

山形大学教育学部で作曲の指導にあたった。

◆昭和二十九年制定

◆平成十八年三月休校、同二十五年三月閉校

一 月布川の水は清く澄み、学校のあるこの地をうるおしてくれる。山の谷間の絶えることのない流れに架けようとしているのは、平和の虹に彩られた橋だ。心は誠を尽くし身は強く、ああ、仲むつまじい花のように咲き誇り、高々と歌いあげるその歌声さえも日々向上をめざしている。

二 御館山の濃い緑を望み、木々の上を渡って輝く風が吹き寄せるこの丘に、貫見の里に調和して堂々と、古い歴史を持つ七軒東小学校が建っている。今日も楽しく学校につどい、ああ、美しい山川に向かって誓う心も日々向上をめざしている。



■知性の淵 勉学に励む人が多く集まっている所。

「淵」は「淵」と同じ内容で、水を深くたたえている所のほかに、物事の多く集まる所の意もある。

■絶えせぬ 絶えることがない。「絶えせ」は動詞「絶えず」。「ぬ」は打消しの助動詞。

■山峡 山と山との間。

■日に新た 儒教の経典、四書の「大学」にある言葉。

昨日よりも今日、今日よりも明日と、一日ごとに新しくなること。常に進歩していること。

■御館の山 寒河江大江氏十八代高基が最上義光の軍勢に追われ自刃した御館山。

■東校 校歌制定時の昭和二十九年に七軒村と本郷村が合併して漆川村となり、七軒村立東部小学校から漆川村立第三小学校に校名が変更された。だが、校名に東が付くそれまでの長い歴史があった。

校歌

作詞 青柳 清
 作曲 菊地 竹夫
 編曲 仲澤 宗輔

一 朝日の山脈やまなみ 照り映える
 深きみどりの ふるさとに
 強く正しきこころね 根性を
 鍛えあげよう 友われら
 七軒西小に 希望あれ

二 月布川の 水澄みて
 たえざる流れと 共に生き
 元気に遊び よく学び
 磨きあげよう 友われら
 七軒西小に 光あれ

三 古き歴史の 学び舎を
 巣立ちし人の 数あまた
 輝く榮譽 受けつぎて
 未来開こう 友われら
 七軒西小に 栄あれ

成立

◆青柳 清

制定当時の教頭。水沢小学校長、谷地中部小学校長等を
 歴任。河北町谷地。

◆菊地 竹夫

制定当時の校長。のち七軒中学校長、左沢小学校長を歴
 任。大江町藤田。制定当時の職員、仲澤宗輔教諭が編曲
 を担当した。

◆昭和四十七年制定

◆平成十三年三月休校、同二十五年三月閉校



七軒西小学校校舎



授業の様子

一 朝日連峰の山々が太陽の光に美しく輝いている。この深い緑に包まれたふるさとに暮らし、強く正しい精神の源を鍛え上げようではないか、友よ、われらは。七軒西小学校に希望あれ。

二 月布川の澄んだ水と絶えざる流れに支えられて人々は生きてきた。これからも川と共に暮らし、元気に遊びよく学び、磨き上げようではないか、友よ、われらは。七軒西小学校に光あれ。

三 古い歴史のあるこの学び舎を巣立った人は多数にのぼる。同窓の先輩たちの輝く榮譽を受け継いで、未来を開いていこうではないか、友よ、われらは。七軒西小学校に栄えあれ。

■根性 「こころね」と読ませ、心の底、精神の深い部分を指している。

■七軒西小 柳川尋常高等小学校から七軒西部尋常高等小学校に改称されたのは、昭和十年であった。同じ年に七軒東部尋常高等小学校（貫見）・七軒南部尋常小学校（十郎畑）への改称も行われた。

■古き歴史の学び舎 明治九年に柳川の永林寺内に設立され、同十八年の七夕畑への移転を経て同三十七年に沢口と柳川の境界の高台に新築移転したのは、閉校まで校地は変わらなかった。

■数あまた たくさんの意。七軒西小学校の児童数のピークは、昭和三十四年の三〇六名であった。



校歌

作詞 鈴木 祖芳
 校訂 茂木幸次郎
 作曲 玉谷 正一

一 流れ清らな 大瀬川
 高くそびえる 月山や
 朝日の峰の 気高さに
 心も体も たくましく
 伸びよう 南小学生

二 遠いみ親の 血と汗で
 幸をひらいた わが里は
 平和の光 さすところ
 働く喜び 胸にひめ
 励もう 南小学生

三 希望もえたつ 朝ぼらけ
 夢はとぶとぶ あかね空
 学びの道は 遠くとも
 正しく強く 手を組んで
 進もう 南小学生



七軒南小学校校舎



七軒南小学校道海分校の児童

成 立

◆鈴木 祖芳

制定当時の校長。のち大井沢小中学校長、水沢小学校長、
 陵東中学校長を歴任。寒河江市元町。

◆玉谷 正一

当時西村山教育事務所指導主事。三郷小学校長、西部中
 学校長、白岩中学校長、陵西中学校長等を歴任。寒河江
 市宮内。

◆昭和三十九年制定

◆昭和五十六年三月閉校。その後七軒西小学校道海分校
 となったが、平成十年三月閉校。

一 大瀬川の流れの清らかさと、高くそびえる月山や朝日の峰の気高さに学び、心も体もたくましく伸びよう、南小学生よ。

二 遠く遙かな昔から祖先が血と汗を流して暮らしを切りひらいてきたわたしたちの里は、平和の光が差しすところだ。働く喜びを胸に刻んで励もう、南小学生よ。

三 希望が胸にわき起こる夜明け方には、あかね色の空に向かって夢は飛んでいく。学びの道は遠くまで続いているが、正しく強い心を持ち友と固く手を組んで進もう、南小学生よ。



■校訂 『イリの村と七軒南小学校―百周年記念誌』によると、詞の校訂というより補作をおこなったことがわかる。

■大瀬川 月布川水系で最長の支流。二俣、道海を流れ、沢口で月布川に合流する。

■南小学生 七軒南小学校の学区は、七軒村となる前の沢口村の道海・二俣、小清村の十郎畑・田代、そして勝生村というように行政区から独立したものであった。

■血と汗 山間部で耕地が少なく、学区の先人たちは苦労をしつつ青苧・生糸・生漆・漆ロウなどの生産に励んだ。

■朝ぼらけ 朝がほんのりと明けてくる頃。

校歌

作詞 神保光太郎

作曲 中田 喜直

一 呼んでいる あの山 この山

ふるさとの山 たくましの父

ああ われら 今日もここに

永遠の真理を求め 誓いもかたく

さあ励もうよ 励んで行こう

大江 大江 山形大江 大江中学

二 呼んでいる あの河 この河

ふるさとの河 なつかしの母

ああ われら 今日もここに

しあわせのあすを望み 明るく清く

さあ学ぼうよ 学んで行こう

大江 大江 山形大江 大江中学

三 呼んでいる あの道 この道

ふるさとの道 陽に映える夢

ああ われら 今日もここに

新しい世紀をめざし ちからをあわせ

さあ進もうよ 進んで行こう

大江 大江 山形大江 大江中学

成 立

◆神保光太郎

山形市生まれの詩人・ドイツ文学者。山形県内外各学校の校歌の作詞を数多く手がけた。

◆中田 喜直

昭和期を代表する作曲家。「夏の思い出」「ちいさい秋みつけた」「雪の降るまちを」などのほか、校歌の作曲も多い。

◆昭和五十一年開校に合わせて制定



大江中学校校舎





運動会の様子



理科の授業



■あこの山、この山・今日もこの山など 五や七の定型を破った語をあえて用いることで軽快で現代的なリズムを生み出ししており、統合中学校としての清新な校風にふさわしいものとなっている。

■山・河・道 具体的な名称を省き、受けとめる人それぞれこの山や河や道のイメージが校歌に投影される効果をもたらしている。

(九) 左沢中学校

校歌

作詞 神保光太郎
作曲 高田 三郎

一 河風薫る 故郷ふるさとの

最上の流れ わがこころ

映る柏の 影清く

伸び行く われら

若き鮎いのち 若き生命

われら われら

拓かん ここに 日本の未来

二 遥かに望む 山脈やまなみの

聖なる姿 わがこころ

なびく白雲しらくも 陽に映えて

伸び行く われら

若き驚 若き誇り

われら われら

興さん ここに 日本の未来

成立

◆神保光太郎

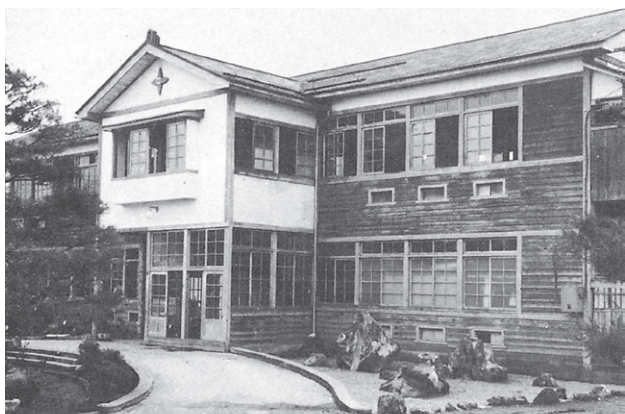
山形市生まれの詩人・ドイツ文学者。山形県内外各学校の校歌の作詞を数多く手がけた。

◆高田 三郎

合唱曲を多く手がけた作曲家。合唱組曲「水のいのち」をはじめ多数の声楽曲を作曲した。

◆昭和二十七年制定

◆昭和五十一年三月閉校



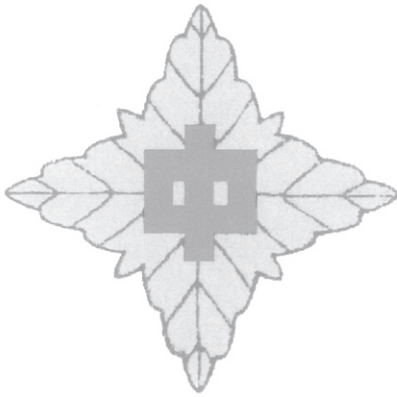
左沢中学校校舎



昭和37年頃の技術学習の様子

一 川からの涼しい風が緩やかに吹くふるさとの最上川の流れこそが、わたしの心の源である。川面に映る柏の葉の景観を心に刻み、伸びゆくわたしたちは生命が躍動する若い鮎のようだ。わたしたちはここに拓いていこう、日本の未来を。

二 遥かに望む山並みの、けがれなく厳かな姿こそが、わたしの心の源である。風になびく白雲が陽に映える景観を心に刻み、伸びゆくわたしたちは誇りに満ちた若い鷺のようだ。わたしたちはここに興していこう、日本の未来を。



■河風薫る 歌い出しのこの部分は、最上川が大明神山下で曲流する地点にあった左沢中学校を象徴するものとして親しまれ、学校文集も「河風」と名づけられた。

■映る柏の影 百目木地区の「柏澗かしわどろ」を指す。左沢対岸の崖の傾斜した地層が最上川の深く緩やかな流れに映った様子が、柏の葉のように見えたことから、景勝として知られていた。

■鮎 古くから築場としてもにぎわった最上川の川魚を代表するものであり、躍動感に満ちた若さの象徴でもある。

■拓かん・興さん 戦後の六・三制による新制中学校発足の理想が力強く表現されている。「む・ん」は意志を表す助動詞。

校歌

作詞 結城哀草果
作曲 信時 潔

一 春爛漫の 桜花

たつ美が丘に 蝶舞いて
奥羽山脈 遠霞む
向学燃ゆる 若子らが
親和を誓い 学ぶゆえ
本郷中学 栄えゆく

二

本郷里の 朝ぼらけ
ねぐらを出でし 百鳥の
日々新しく 飛びうたう
たつ美が丘に 若子らが
誠をかざし 学ぶゆえ
本郷中学 進みゆく

三

朝日高嶺の 雪溪が
月布川に 流れきて
清々無窮を 奏でゆく
意気軒昂の 若子らが
高き希望に 学ぶゆえ
本郷中学 輝かん



本郷中学校校舎



本郷中学校ブラスバンド

成立

◆結城哀草果

山形県を代表するアララギ派の歌人。農業に従事し、斎藤茂吉に師事した。歌集に「山麓」「まほら」など。

◆信時 潔

大正・昭和期に活躍した作曲家。東京芸術大学の前身である東京音楽学校を卒業後ドイツに留学し、帰国後は音楽教育に貢献。九〇〇曲近い校歌を残した。

◆昭和二十七年制定

◆昭和五十一年三月閉校

一 春が来て満開の桜の花が一斉に咲き乱れている。たつみが丘に色とりどりの蝶が舞い飛び、遙か彼方の奥羽山脈に霞がかかって見える。それらに見守られながら、勉学の情熱に燃える若人らが、互いに親和を誓って学んでいる。それゆえに本郷中学校はこれからも栄えゆく。

二 本郷の里の夜明け方は、巢から出てきた多くの鳥たちが、一日ごとに新しくなることを求めて飛びうたう。それと同じように、たつみが丘につどう若人らが、日々真実を究めようと学んでいる。それゆえに本郷中学校はこれからも進みゆく。

三 朝日連峰の高嶺に残る雪渓が月布川の水となって流れ下り、清らかな調べを奏でとこしえの舞いを舞っている。それに倣うように意欲みなぎる若人らが、志も高く希望に燃えて学んでいる。それゆえに本郷中学校はこれからも輝き続ける。

■ 爛漫 花の咲き乱れたさま。

■ たつ美が丘 本郷中学校の校地は、たつみ公園と称した葛沢の高台にある景勝の地であった。学校文集の名前にもなり親しまれた。

■ 若子 幼い子。若い子。

■ 朝ぼらけ 朝がほんのりと明けてくる頃。

■ 百鳥 多くの鳥。いろいろの鳥。

■ 日々新しく 儒教の経典、四書の「大学」にある言葉。昨日よりも今日、今日よりも明日と、一日ごとに新しくなること。常に進歩していること。

■ 清々 きわめて清らかなこと。すがすがしいこと。

■ 無窮 きわまることがない。

■ 奏でゆく 音楽を奏する。舞いを舞う。

■ 意気軒昂 意気込みが盛んなこと。



校歌

作詞 安孫子恒雄
 作曲 高橋 幹彦
 編曲 鈴木 茂

一 愛宕の山の 緑こく

流れも清き 漆川

高鳴る胸に 若人の

理想かがやく 大朝日

ああ高台の わが中学校

二 七葉しちようのもみじ 照り映えて

平和の虹の かかる丘

友愛の日々 うるわしく

文化の花を かざしゆく

ああうるわしの わが中学校

三 自律のひかり さす学園そがくえんに

あかるき知性 剛つよき肌

みがく力に あたらしき

祖国こくにおこさんと われらゆく

ああ栄えゆく わが中学校

成 立

◆安孫子恒雄

川土居小学校長、西根小学校長、谷地中学校長、寒河江中学校長、寒河江市教育長等を歴任。寒河江市丸内。

◆高橋 幹彦

山形大学教育学部特別教科（音楽）教員養成課程の在学中に校歌を作曲。のち山形大学教育学部で声楽の指導にあたった。

◆昭和三十年制定

◆昭和五十一年三月閉校



七軒中学校校舎



授業の様子

一 愛宕の山の緑はいつそう濃さを増して、漆川も清くさわやかに流れている。高鳴る胸で青春の希望を語れば、大朝日の峰は若人の理想を映して輝き続ける。ああ、高台に建つわが中学校よ。

二 七葉のもみじが日差しを受けて美しく輝き、校舎の建つ丘に平和を貴ぶ壮麗な虹が架かっている。わたしたちは友愛の日々を大切に、薫り高い文化の花を身にまとう。ああ、望ましい姿のわが中学校よ。

三 自律を重んじる学園でめざすものは、曇りなき正しい知性と、何物にも屈しない強靱な精神である。この学び舎で磨いた力で新しい国を立ち上げらせようと、わたしたちは進む。ああ、栄えゆくわが中学校よ。



■愛宕の山 七軒中学校は沢口の南の高台に建ち、その背後にある山を愛宕山と呼んだ。正式名称はトガリ山で、山頂に愛宕神社をまつた。

■漆川 月布川の古い名。流域に漆の木が多いことからきている。塗料の漆と、実を絞った漆ロウは、青苧と並んでかつての七軒地区の生業を支えた。

■七葉のもみじ 葉の先が七つに裂けた形をしたもみじ。七軒中学校の校章にもなった。

■うるわし 立派、見事である。ここでは人の仲が理想的にいつている。仲が良いの意。

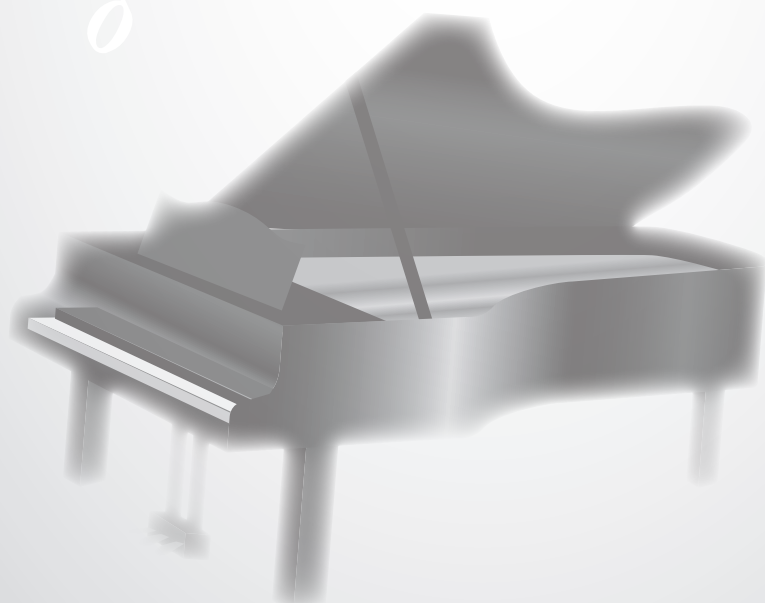
■あかるき 曇りがなく、晴れやかである。やましいところがなく、公明である。

■剛き 気丈である。屈しない。

■肌 ここでは気質、気性の意。

■みがく力に 「に」は材料・背景を表す助詞。「…に よって」「…の内に」

校歌樂譜



左沢小学校校歌

稲葉 武 作詞
松田 光郎 作曲

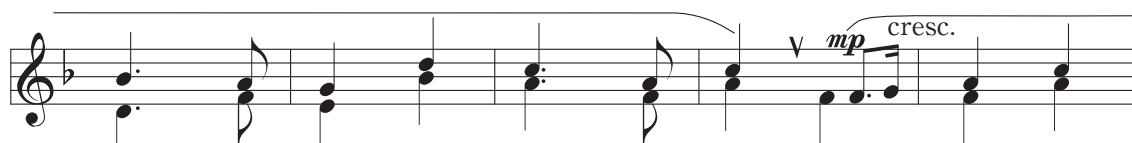
さわやかに (♩ = 100)



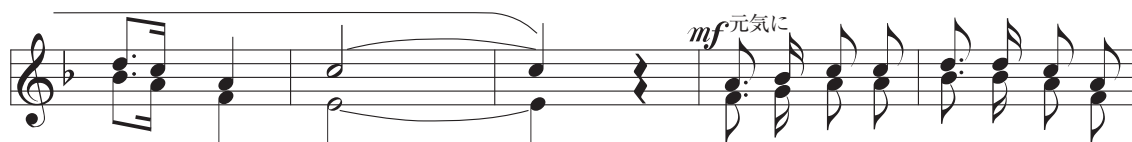
ひーがしひらけてながめよい



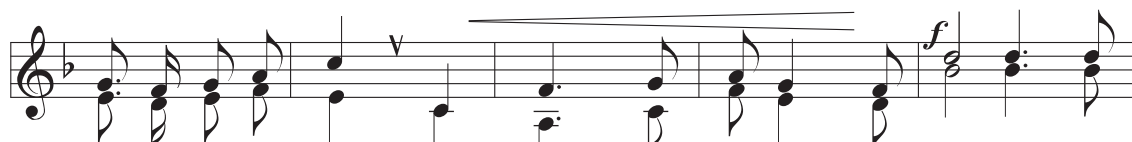
ふーるいれきしのすいきょうーをな



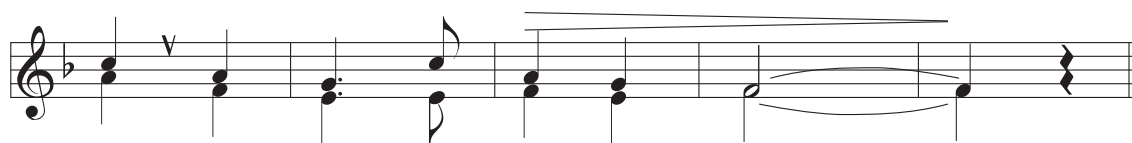
がれてやまーぬもーがー



みーがわ きしべにたーかく



たつぼこう ああーあてらざわ



のしょうーーがっこうー

左沢小学校校歌

作詞 稲葉 武
作曲 松田 光郎

一 東開けて 眺めよい

古い歴史の 水郷を

流れて止まぬ 最上川

岸辺に高く たつ母校

ああ 左沢の小学校

二 きれいな学苑そのに 校風かせかおり

みんな仲良く 花と咲く

ああ 左沢の小学生

心ほがらに 健やかに

今日も楽しく 励もうよ

三 平和の光 さすところ

希望は胸に あふれくる

ああ 左沢の小学生

昔をしのび 日に新た

今日も元気で 学ぼうよ

本郷東小学校校歌

完戸一郎 作詞
田中綾子 作曲

$\bullet = 112$
mf

あさひのみねのゆきとけてな
がれもすずしつきぬのほとりに
そだつともわれらああさわやかな
まなびやにからだきたえてきりつよ
くまなぼうせかいのちととくを

本郷東小学校校歌

作詞 完戸一郎
作曲 田中綾子

- 一 朝日の峯の 雪とけて
ながれも涼し 月布の
ほとりに育つ 友われら
ああさわやかな 学び舎に
からだきたえて 規律よく
学ぼう世界の 智と徳を
- 二 北空たかく そびえたち
のぞめばいよよ おごそかに
ゆくてをさとす 月の山
ああたくましく はばたいて
希望の天地 めざしつつ
おこそう祖国を 故里を
- 三 思い出つもの 野の道を
仲よくかよう なつかしの
本郷東小学校
ああたからかに うたいつつ
たのしく遊び はたらいて
築こう自律の 校風を

三郷小学校校歌

井上 助太郎 作詞
丸子 喜一 作曲

$\text{♩} = 116$
mf

ほ の ー ぼ の と さくらの はなの さくおかに

こじょうのように そゝりたち れ き しをか ー た る

し ろ い か べ か べ に き ざ む た か

い き ぼ う む ね に い だ け ば は つ ら つ

と ぼ く ら は ま ー な ぶ あ さ ゆ う

に

三郷小学校校歌

作詞 井上助太郎
作曲 丸子 喜一

一

ほのぼのと
桜の花の 咲く丘に
古城のように そそり立ち
歴史を語る 白い壁
壁にきざむ 高い希望
胸にいだけば はつらつと
ほくらは学ぶ 朝夕に

二

今日もまた
紅葉かざして 行く道は
最上のほとろ ひとすじに
松の影ふむ 古い道
遠く望む 朝日の雲
行こうよみんな あの雲へ
歌声たかく 元気よく

三

そよ風よ
日本の夜明け しらじらと
近くきこえる 瀬の音に
水引草が ゆれている
守れ山河 つくせ誠
まこと仲よく 立ち上がる
その名も 三郷小学校

本郷西小学校校歌

鈴木 錦之助 作詞
安孫子 正雄 編詞
福田 隆一 作曲



さ み - どり の や ま は め - ぐ - り て
う る わ し き と り も き な き - て
た り - ほ な す め - ぐ み の - さ - と に
そ び え た つ わ れ ら が こ う - しゃ
と も に た た え ん

本郷西小学校校歌

作詞 鈴木錦之助
編詞 安孫子正雄
作曲 福田隆一

一 さみどりの 山はめぐりて
うるわしき 鳥も来なきて
垂穂^{たりのほ}なす 恵みの里に
そびえたつ 我等が校舎
共に 讃えん

二 月布の 流れも清く
里人を うるおす如く
年々を この学舎の
恵み来し かおりぞ高き
共に あおがん

三 たぎりたつ 我等が血潮
み教えを 胸に心に
世の中の 力とならん
いや高き 望みに生きて
共に はげまん

七軒東小学校校歌

安孫子 恒 雄 作詞
齋 藤 鉉 吉 作曲



つきぬのがわの みずきよく ちせいのふちを ひたしゆく



な がれたえせぬ やまかいに かけるへいわの にじのはし



こ こ ー ろ ま こ ー と に み は つ ー よ ー く



あ あ な か よ し の は な と さ き う た う う た さ え ひ に あ ら た

七軒東小学校校歌

作詞 安孫子恒雄
作曲 齋藤鉉吉

一 月布川の 水清く

知性の淵を ひたしゆく
流れ絶えせぬ 山峡やまかいに
架ける平和の 虹の橋
心誠に 身は強く

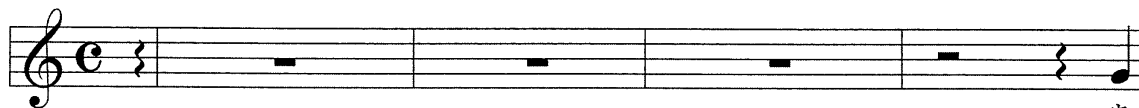
ああ 仲良しの 花と咲き
うたう うたさえ 日に新た

二 御館の山の 緑こく

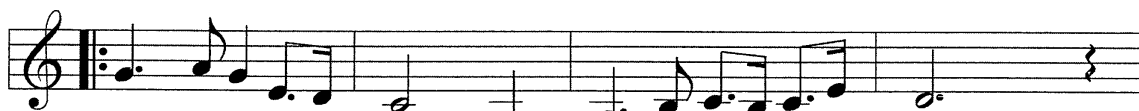
輝く風の 薫る丘
貫見の里に 映えてたつ
古き歴史の 東校
今日も楽しく 集い来て
ああ うるわしの 山川に
誓う 心も 日に新た

七軒西小学校校歌

青柳 清 作詞
 菊地 竹夫 作曲
 仲澤 宗輔 編曲



あ



さ ひのやま な み て り は ー え ー る



ふ ー か き み ど り の ふ る ー さ と に



つ よ ー く た だ し き こ こ ー ろ ね を き た



え あ げ よ と も わ れ ら し ち



けん に し しょう ー に き ぼ う あ れ

七軒西小学校校歌

作詞 青柳 清
 作曲 菊地 竹夫
 編曲 仲澤 宗輔

一 朝日の山脈やまなみ 照り映える

深きみどりの ふるさとに

強く正しき 根性こんじやうを

鍛えあげよう 友われら

七軒西小に 希望あれ

二 月布川の 水澄みて

たえざる流れと 共に生き

元気に遊び よく学び

磨きあげよう 友われら

七軒西小に 光あれ

三 古き歴史の 学び舎を

築ちし人の 数あまた

輝く栄誉 受けつぎて

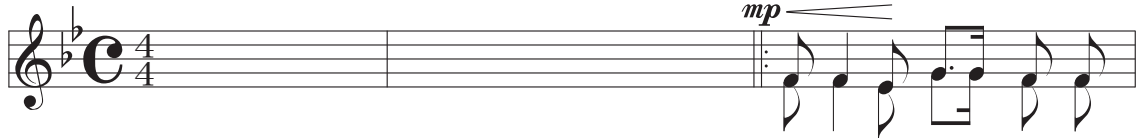
未来開こう 友われら

七軒西小に 栄あれ

七軒南小学校校歌

鈴木 祖 芳 作詞
 茂 木 幸次郎 校訂
 玉 谷 正 一 作曲

いきいきと (♩ = 114)



ながれきよらな



おーせ が わ た か く そ び え る が つ さ ん や



あ さ ひ の み ー ね ー の け だ か さ



に こ こ ろ も か ら だ も た く ま し く



の び よ う み な み し ょ う が く せ い た だ し く つ よ く

(3番目の歌詞のみ上記のように)

七軒南小学校校歌

作詞 鈴木 祖芳
 校訂 茂木 幸次郎
 作曲 玉谷 正一

一

流れ清らな 大瀬川
 高くそびえる 月山や
 朝日の峰の 気高さに
 心も体も たくましく
 伸びよう 南小学生

二

遠いみ親の 血と汗で
 辛をひらいた わが里は
 平和の光 さすところ
 働く喜び 胸にひめ
 励もう 南小学生

三

希望もえたつ 朝ぼらけ
 夢はとぶとぶ あかね空
 学びの道は 遠くとも
 正しく強く 手を組んで
 進もう 南小学生

大江中学校校歌

神保光太郎 作 詞
中田喜直 作・編曲

♩ = 92 ぐらい 明るく、力強く、そして美しく

よんでいるあのやま このやま ふるさとのやま たくましのちち ああ われら
きょうもここに えいえんのしんりを もとめ ちかいもかたく さあはげもうよ
はげんでい こ う おおえ おおえ やまがたおおえ おおえちゆうが
く

大江中学校校歌

作詞 神保光太郎
作曲 中田喜直

- 一 呼んでいる あの山 この山
ふるさとの山 たくましの父
ああ われら 今日もここに
永遠の真理を求め 誓いもかたく
さあ励もうよ 励んで行こう
大江 大江 山形大江 大江中学
- 二 呼んでいる あの河 この河
ふるさとの河 なつかしの母
ああ われら 今日もここに
しあわせのあすを望み 明るく清く
さあ学ぼうよ 学んで行こう
大江 大江 山形大江 大江中学
- 三 呼んでいる あの道 この道
ふるさとの道 陽に映える夢
ああ われら 今日もここに
新しい世紀をめざし ちからをあわせ
さあ進もうよ 進んで行こう
大江 大江 山形大江 大江中学

左沢中学校校歌

神保光太郎 作詞
高田三郎 作曲

爽やかに (♩ = 84)

かわかぜか おる ふる さ と の もがみの な がれ わ が こころ
う つ る か し わ の か げ き よ く の び ゆ く わ れ ら わ か
き あ ゆ わ か き い の ち わ れ ら わ れ ら ひ ら か ん こ こ に
ほ ん の み ら い

左沢中学校校歌

作詞 神保光太郎
作曲 高田三郎

一 河風薫る 故郷ふるさとの

最上の流れ わがこころ

映る柏の 影清く

伸び行く われら

若き鮎 若き生命いのち

われら われら

拓かん ここに 日本の未来

二 遥かに望む 山脈やまなみの

聖なる姿 わがこころ

なびく白雲しろくも 陽に映えて

伸び行く われら

若き鷺 若き誇り

われら われら

興さん ここに 日本の未来

本郷中学校校歌

結城 哀草果 作詞
信時 潔 作曲

快活に (♩=約104)

はるらんまんの さくらばな たつみが
をかに 蝶一まい て 奥一羽 やまなみ
とおがす む 向一がく もゆる わくごら
が しん わを ちか い まな
ぶ ゆ え 一 ほ ん 郷 一 中 一
が く さ か え ゆ く

本郷中学校校歌

作詞 結城哀草果
作曲 信時 潔

一 春爛漫の 桜花

たつ美が丘に 蝶舞いて
奥羽山脈 遠霞む
向学燃ゆる 若子らが
親和を誓い 学ぶゆえ
本郷中学 栄えゆく

二 本郷里の 朝ぼらけ

ねぐらを出でし 百鳥の
日々新しく 飛びうたう
たつ美が丘に 若子らが
誠をかざし 学ぶゆえ
本郷中学 進みゆく

三 朝日高嶺の 雪溪が

月布川に 流れきて
清々無窮を 奏でゆく
意気軒昂の 若子らが
高き希望に 学ぶゆえ
本郷中学 輝かん

七軒中学校校歌

安孫子 恒 雄 作詞
高橋 幹 彦 作曲
鈴木 茂 編曲

Andante
あまり遅くなくいきいきと

あ た ご の やー ま の み どー り こ く な
が れ も きー よ き うー る し か わ たー
cresc. かな る む ね に わ こー ど の り
mf そ うー か が や く おー お あ さ ひ あー
あ た か だ い の わ が 中ー 学ー 校 あ
sf あ た か だ い の わ が 中 学 校

七軒中学校校歌

作詞 安孫子恒雄
作曲 高橋 幹彦
編曲 鈴木 茂

一 愛宕の山の 緑こく

流れも清き 漆川

高鳴る胸に 若人の

理想かがやく 大朝日

ああ高台の わが中学校

二 七葉しちようのもみじ 照り映えて

平和の虹の かかる丘

友愛の日々 うるわしく

文化の花を かざしゆく

ああうるわしの わが中学校

三 自律のひかり さすそ学園のに

あかるき知性 剛つよき肌

みがく力に あたらしき

祖国くにおこさんと われらゆく

ああ栄えゆく わが中学校

参 考



山形県立左沢高等学校校歌

中西 悟堂 作詞
末 広 恭 雄 作曲

急がず荘厳に



1 おおあさひ たかく ひには
2 かしわどろ ゆるき みのも
3 あさひねよ すそも ゆたけ



え — あまかける しろき つばさと — いやきよ くひに—
に — やなかくる こぞす いごう — わかあゆ のさば—
く — おおもがみ こを めぐり て — すえひろ きうみ—



けにさやに — われらをぞはぐ— くむこのち — ここのに
しるごとき — すこれやかまに かた— みにむつ み — ここのに
をぞめぎす — われらまた りそ— うもたか く — ひのの



し も まなびやたてり }
し も まわれらはまなぶ } ぼこうよ あてらざわこうとうがっ こう—
と の ゆくてをになう }

山形県立左沢高等学校校歌

作詞 中西 悟堂
作曲 末広 恭雄

一、大朝日 高く日に映え

天翔る 白き翼と

いや清く 日にけに爽に

われらをぞ 育むこの地

こゝにしも 学び舎立てり

母校よ 左澤高等学校

二、柏瀨 ゆるき水の面に

築かくる こゝぞ水郷

若鮎の さばしるごとく

健やかに 互みに睦み

こゝにしも われらは学ぶ

母校よ 左澤高等学校

三、朝日嶺よ 裾も豊けく

大最上 こゝをめぐりて

末廣き 海をぞ目指す

われらまた 理想も高く

日の本の 未来を担う

母校よ 左澤高等学校

平成二十九年三月 発行

大江町学校校歌集

編集発行 大江町教育委員会

西村山郡大江町大字本郷丁三七三番地の一

電話 〇二三七(六二)二三七〇

印刷 株式会社 若月印刷

寒河江市大字中郷字千本原一七八七番地